

ページ	修正前		修正後	
P.14	4 年次で「卒業研究」を履修登録するための条件（進級要件） 卒業必要単位のうち100単位以上修得していること。（卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入されない。） 上記のケースでは、総取得単位数は107単位であるが、進級判定に有効な単位数は98単位である。 総取得単位数は100単位以上であるが、進級要件を満たす単位数には達していない。 ※その他の進級要件は「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」の履修条件を確認すること。	→	4 年次で「卒業研究」を履修登録するための条件（進級要件） 卒業必要単位のうち100単位以上修得していること。（卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入されない。） <u>進級するためには、総取得単位数で100単位以上の取得かつ進級判定に有効な単位数も100単位以上取得する必要がある。</u> 上記のケースでは、総取得単位数は107単位であるが、進級判定に有効な単位数は98単位である。 <u>そのため、総取得単位数は100単位以上であるが、進級要件を満たす単位数には達していない。</u> ※その他の進級要件は「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」の履修条件を確認すること。	※4/1更新の「差し替え箇所（P9.13）」、「差し替え箇所（P14-15）」をご確認ください。
P.15	4 年次で「リサーチ・プロジェクトⅠ」を履修登録するための条件（進級要件） 卒業必要単位のうち100単位以上修得していること。（卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入されない。） 上記のケースでは、総取得単位数は101単位であるが、進級判定に有効な単位数は95単位である。 総取得単位数が100単位以上であるが、進級要件を満たす単位数には達していない。 ※その他の進級要件は「リサーチ・プロジェクトⅠ」の履修条件を確認すること。	→	4 年次で「リサーチ・プロジェクトⅠ」を履修登録するための条件（進級要件） 卒業必要単位のうち100単位以上修得していること。（卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入されない。） <u>進級するためには、総取得単位数で100単位以上の取得かつ進級判定に有効な単位数も100単位以上取得する必要がある。</u> 上記のケースでは、総取得単位数は101単位であるが、進級判定に有効な単位数は95単位である。 <u>そのため、総取得単位数が100単位以上であるが、進級要件を満たす単位数には達していない。</u> ※その他の進級要件は「リサーチ・プロジェクトⅠ」の履修条件を確認すること。	※4/1更新の「差し替え箇所（P9.13）」、「差し替え箇所（P14-15）」をご確認ください。
P.19	他大学単位互換科目 ・大学コンソーシアム京都単位互換科目は、財団法人大学コンソーシアム京都に加盟している京都地域の私立大学、短期大学、国立大学の授業科目を履修できる制度です。単位互換制度の詳細については『単位互換履修生募集ガイド』（文化情報学部事務室で配布）を参照してください。 ・同志社女子大学単位互換科目は、同一法人内の大学である同志社女子大学の授業科目を履修できる制度です。単位互換科目の詳細については、『同志社女子大学単位互換科目履修ガイド』（文化情報学部事務室で配布）を参照してください。	→	他大学単位互換科目 ・大学コンソーシアム京都単位互換科目は、財団法人大学コンソーシアム京都に加盟している京都地域の私立大学、短期大学、国立大学の授業科目を履修できる制度です。単位互換制度の詳細については 大学コンソーシアム京都HPに掲載されている『デジタルパンフレット』 を参照してください。 ・同志社女子大学単位互換科目は、同一法人内の大学である同志社女子大学の授業科目を履修できる制度です。単位互換科目の詳細については、 同志社大学HPに掲載されている『同志社女子大学単位互換科目履修ガイド』 を参照してください。	
P.25	「文化論入門」（1年次・春） 文化とは何か、また文化はどのように論じられて来たかを概説する。前半では文化を構成する主要素である情報がどのように共有されてきたかを1）オリエンタリズムのような集団的なバイアス2）世界宗教の本質3）都市と都市化を中心に講じる。後半では前半の応用として多文化社会と高度化情報社会を論じる。	→	「文化論入門」（1年次・春） <u>「技術（テクノロジー）」、「情報」、「理系／文系」といった言葉が、具体的に何を指すのか、いつごろからどういう経緯で生まれてきたのかを概説する。本講義では、これらの概念を「文化」という視点から歴史的哲学的に考察し、「情報」も「技術」もそもそも人間が生み出し用いるものであり、その意味では文化的背景（社会や歴史）と無関係ではないことを論じる。</u>	
P.26	「比較文化論」（2年次・秋） 人間の動的な文化活動を分析する方法として、文化活動を空間的時間的な比較軸において考察する文化理論を学ぶ。空間的とは活字文化、映像、音楽、服飾、ファッションなどの表象の異文化間での影響関係を指す。時間的とは近代から現代への移行期に文化がどのように人間のアイデンティティーを包摂するようになったかである。個別事例を検討しながら講義する。	→	「比較文化論」（2年次・秋） <u>いわゆる理系・文系と芸術は、人が世界を記述し、受けとめ、世界に働きかけるための三つのモードであり、それらは人間の三つの「文化」とすら言える。本講義では、さまざまな具体的事例に即して、三つのモード（文化）と、その思考法の違いを比較理解しながら、例えば、西洋近代以降の身体思想の変遷と、現代社会における人間性回復の可能性について論じる。</u>	
P.35	科目コード：10808417 科目名：文化情報学トピックス-地域課題を解決する新規事業開発- 担当者：泉川 大樹 備考：無し	→	科目コード：10808417 科目名：文化情報学トピックス-地域課題を解決する新規事業開発- 担当者：泉川 大樹、 波多野 賢治 備考： 先行登録フィールドワークが実施される。実施日、講義日程はシラバスを確認すること。	
P.50	科目コード：10807873 科目名：体験型教養科目-地域課題を解決する新規事業開発- 担当者：泉川 大樹 備考：無し	→	科目コード：10807873 科目名：体験型教養科目-地域課題を解決する新規事業開発- 担当者：泉川 大樹、 波多野 賢治 備考： 先行登録フィールドワークが実施される。実施日、講義日程はシラバスを確認すること。	